

第19回

# 中学生訪中親善使節団報告書

平成23年3月26日(土)～3月31日(木) 6日間

上海・南昌・北京



財団法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目 次

I	団 員 名 簿	1
II	日 程	2
III	使節団の活動状況	3
IV	感 想 文	15

## 第 19 回中学生訪中親善使節団団員名簿

団 長	大 山 利 尋	財団法人高松市国際交流協会常務理事・事務局長
同行看護師	金 崎 ゆかり	高松市民病院 主任看護師
同行職員	森 田 由起子	財団法人高松市国際交流協会事務局員
団 員	山 道 菜々子	高松市立高松第一中学校 1 年
〃	秋 山 実 穂	高松市立高松第一中学校 2 年
〃	小 路 悠	高松市立龍雲中学校 1 年
〃	十 河 仁 大	高松市立龍雲中学校 2 年
〃	若 宮 翔	香川県立高松北中学校 1 年
〃	松 村 将 裕	香川大学教育学部附属高松中学校 1 年
〃	中 村 萌 乃	香川大学教育学部附属高松中学校 1 年
〃	藤 原 衣 織	香川大学教育学部附属高松中学校 1 年
〃	松 本 咲 葵	香川大学教育学部附属高松中学校 2 年
〃	檀 浦 万有香	香川大学教育学部附属高松中学校 2 年
〃	柳 原 麻 衣	香川大学教育学部附属高松中学校 2 年

## 日 程

月 日 (曜日)		主 な 行 事		宿 泊
1	3月26日(土)	9:10 9:30 11:10 13:20 15:00	アイパル正面玄関集合 高松発(専用バス) 岡山空港着 岡山空港発(中国東方航空 MU528便) 上海浦東国際空港着 東方明珠テレビ塔、 南京路、黄浦江等見学	(上海泊) 虹口世紀大酒店 (ベストウェスタン上海) 上海市虹口区溧陽路 1111 号 TEL: +86-21-36084999 FAX: +86-21-65213418
2	3月27日(日)	17:30 20:05 21:20 22:00	豫園、上海動物園、上海博物館見学 上海にて食事 中国東方航空 MU5565 にて一路南昌へ 南昌(昌北空港)到着 ホストファミリー出迎え(対面式)	(南昌泊) ホームステイ ※引率者は日中友好会館 南昌市湖濱南路 72 号 TEL: +86-791-8890966
3	3月28日(月)	8:30 9:00 9:30 12:00 13:30 14:00 15:30 16:30 17:00 17:30 19:30	日中友好会館集合 南昌市第二十七中学校へ 中学校にて交流 昼食会 八大山人記念館へ 八大山人記念館見学 METRO スーパーマーケットで買い物 日中友好会館へ帰る ホストファミリー出迎え 夕食(団長、引率) ホームステイ 先訪問(団長、引率)	(南昌泊) ホームステイ ※引率者は日中友好会館
4	3月29日(火)	8:30 9:00 9:30 11:10 11:30 12:00 13:30 14:00 15:00 15:20 17:00 18:40 20:50	日中友好会館集合 ホストファミリーとお別れし、 滕王閣へ出発 滕王閣見学 滕王閣を出発 南昌市人民政府羅慧芬副市長を 表敬訪問 歓迎会 紅谷灘新区へ出発 贛江市民公園を散策 (観覧車、秋水広場) 南昌商学院(大学)へ出発 南昌商学院の日本語科の学生と交流 南昌(昌北空港)へ向け出発 中国東方航空 MU5175 にて一路北京へ 北京首都空港到着、夕食後ホテルへ	(北京泊) 北京長安大飯店 (長安グランドホテル) 北京市朝陽区華威里 27 号 TEL: +86-10-67731234 FAX: +86-10-67733456
5	3月30日(水)	9:00	ホテル出発 北京市内見学 故宮博物館、天安門広場、 万里の長城等	(北京泊) 北京長安大飯店 (長安グランドホテル)
6	3月31日(木)	5:30 6:30 8:30 13:40 14:00 16:15	ホテル出発 北京空港着 北京空港発(中国東方航空 MU2013) 岡山空港着 岡山空港発(専用バス) 高松着(アイパル正面玄関前にて解散)	

※時刻は現地時間

## 使節団の活動状況

3月26日（土曜日） 使節団1日目 ●高松～上海

朝9時過ぎ、11名の中学生たちがホストファミリーに渡すお土産と期待をトランクにぎっしり詰め込んで集合した。その中に38℃の熱がある団員がいたが、金崎看護師とも相談の結果、本人の行きたいという意志を尊重した。加藤局長からの見送りの言葉、大山団長と松本さんの出発のあいさつを終え、見送りに来られた保護者、そしてペットと別れ、バスに乗り込む。

中国での食事が合わないことや、食べ過ぎによる体調不良も考え、途中栄養補助食品を購入した。空港近くは雪が降っていて、これから寒い旅になるのかと不安になった。

岡山空港には、ほぼ定刻通り到着したが、お土産ぎっしりのトランクが、20kg超えているのでは、ということで、荷物の整理に時間を取った。トランクには、飲料水や、ウーロン茶のペットボトルなどが入っていた。保護者の気持ちが伝わる荷物を目にし、安全に、健康に連れて帰らなくてはと改めて感じた。チェックインを済ませた後、約1時間ロビーで待たされる。その間に各自、家から持って来た軽食をほおぼった。

ようやく窓口が開き、いよいよ出国へ。各自出国手続きを済ませゲート前で待つ。飛行機は少し遅れて出発。ちょっと小さい機体だったので揺れが気になった。機内食は午後1時ごろ出た。育ち盛りの彼らは前もって食べていてよかった。

午後3時ごろ予定より遅れて上海浦東空港に到着、久しぶりに迎えに来た南昌市外事弁公室の顔（ガン）さんと再会する。かわいらしい上海ガイドの賈（カ）さんと共に外灘（ワイタン）へ向かう。この日は上海にしては青空だとガイドさんは言う。気温は高松と変わらないと感じた。



外灘にて記念撮影

外灘は、アヘン戦争によって設けられたイギリスの租界（外国人居留地）で、クラシックな西歐風の建物が並んでいる。黄浦江（ホアンブージャン）の川沿いの土手を整備した遊歩道で、ここには遊覧船乗り場などがあり、そこからは発展した上海の高層ビル群の風景をパノラマで見ることができる。ガイドさんの言っていた通り、現地のカップルが目についた。その他は観光客ばかり。目まぐるしく変わる経済都市上海を一目でわかるこの場所は、これか

らを担う若者にはぴったりだ。

そして、外灘から見えていた東方明珠テレビ塔に向かった。二つの大きな球体が串に刺さっているようなこの塔は、高さ468mある。いざ塔の中へ！ 入って施設中央部分にある支柱に埋め込まれたエレベーターに乗る。そこまでたどり着くのも大変だった。水を捨て、荷物のセキュリティチェックを済ませなくてはならない。列に並んでしばらく、ようやくカプセル状のエレベーターに乗り込む。現地の観光客と、もみくちゃになりながらの搭乗は、ラッシュアワーの電車の様で、背丈の低い団員たちは息を吸う為の空間を確保するのに一苦労。しかし、人口が多いこの地で育った現地の人は平気な顔で大きな声で話の続きをしている。



彼らの強じんな精神力を垣間見た。一同は90m地点で降り、展望フロアへ。時刻としてはもう日が傾く午後5時ごろ。先程歩いた外灘にあった西欧風の建物は、夜のライトアップでより風格を増しているように見える。黄浦江はゆるやかに流れ、観光船などが、細長く小さくそして、進んでいるのではなく、ゆったり浮いているように見える。展望フロアで団員各々景色を堪能し、塔の球体の上側の263mの展望フロアに移動する。エレベーターを降り、窓の様な入口をくぐると、アクリル板を張り巡らしている透明な床が外に向かって張り出している。その壁は壁ではなく、床と同じ透明なアクリル板が金属でつながっており、隙間から高層階の強風が吹き付けて、「肌寒い」を少し超えている。団員は大喜びだが、これはかなり怖い光景だ。離陸時の飛行機から見る風景と変わらない。そこに強風が吹き付け、体を揺らす。天気の良い分、下が丸見え。怖い、楽しいが混ざり合った状態で、不思議なテンションで食事に向かう。



これ以上は進めません。



結婚披露宴を背景に初日の晚餐

黄浦江を望むレストランの二階に案内される。フロアの半分では結婚披露宴が行われており、一同啞然とする。大音量で司会者が宴を盛り上げている中、会場の端を通って丸テーブルに座る。白身魚の酢豚風など、次々と上海の中華料理が並び、現地初の料理を頬張る。食べている間にお嫁さんは2回お色直しをしていた。上海の若者の人生最高の日を遠くから眺めるひと時であった。

お腹もおきて上海一の繁華街南京路へ向かう。ここは外灘から西に伸びる道で、日曜日の銀座のごとく歩行者天国で百貨店や有名店舗が並び、中国らしいネオンも異国情緒があつて、日本人には楽しい場所だ。中国土産を買いたくてウズウズしていた女の子たちは、おもしろいストラップなど値切って買っていた。午後8時半上海のホテルに向かう。午後9時半、各自部屋に入り、初日を終える。

お腹もおきて上海一の繁華街南京路へ向かう。こ

### 3月27日(日曜日) 使節団2日目

#### ●上海～南昌

午前8時半、上海動物園に向かう。今日も上海は薄い青空。こんなに空が見える日は少ないので、私たちはラッキーだとガイドさんは言っていた。上着はバスに置いて、一同ゲートに向かう。中国の動物



笹のラッパ食い

園はパンダより、ゾウが人気なのか、ゲートのオブジェがゾウだったことに衝撃を受ける。ここは大き



上海動物園ゲート前にて

な動物公園で、幼児は小さな自転車に乗って見学したり、大人たちは広場で楽器を演奏したり、バドミントンをしたりと、動物園

だと思って入った私たちには、かなり自由な公園だなという印象を受けた。メインのパンダは、グダグダと笹を寝ながら食べていた。午前は彼らには眠たい時間らしく、他のパンダも遊具のアスレチックで撃沈。モコモコとした毛の塊が点在していた。そこにレッサー（英語で lesser 「劣る」という意味）という名前を勝手に付けられたレッサーパンダが一同の心をわしづかみにした。飼育員からもらったリンゴを片手でつかんで食べていた。かわいい。起きてくれている、ありがとう栗毛のパンダたち。



心をつかんだレッサーパンダ



屋根から見下ろす関羽像

動物園を堪能し、次は上海唯一の庭園、そして名園の豫園へ向かう。豫園近くの中国の古い建物を再現した街並みの中のレストランで食事をする。ここで出された料理には、味がたっぷりしみ込んだ、かんもどき程の大きさのお麩（ふ）料理が印象的だった。食事を終え、豫園へ徒歩で向かう。ディズニーランドに一步入った時の様な、豫園も独特の世界観を持ち、風景の奥には近代的なビルが見えるが、肌を感じるすべては昔のままの様である。豫園の庭園をはじめ、中国の立派な庭園には太湖石と言われる、湖で浸食され穴が開いた不思議な形の石が珍重され、目の惹くところに置かれている。豫園は中国の文化を凝縮したかの様で、興味深かった。豫園近くの商店で、お土産のショッピングタイムを30分ほど設け、団員たちは各々気になる所へ。その後、上海博物館へ向かった。

やはりここでも厳しい持ち物検査があり、建物の外にも行列が溢れていた。ようやく検査も終わり中に入ると4階にわたって中国の貴重な文化遺産が展示されている。少数民族の衣装や工芸品の展示フロアは、どれも美しく繊細で興味深かった。午後5時半ごろ、ガイドさんに連れられて夕食に向かった先は、どう見ても家電量販店。ところが、金ぴかに内装されたエレベーターに乗りドアが開くと、素敵なおレストランがあった。そこの入り口にも結婚披露宴の受付設営がされていた。3月26日は旧暦で2月22日、数字が並んで縁起がいいので、この日あたりは結婚式ラッシュだということだった。ここで上海最後の晚餐を堪能し、一同南昌へのフライトのため空港へ向かった。

ここの空港でハプニングに遭遇！飛行機の搭乗タラップに案内するバスが、なんと飛行場の中で迷ったのだ！いつまでたっても滑走路の脇をぐるぐるしている。顔さんが「どうも迷っているらしい」と他の乗客の話し声を通訳して一同騒然！！どんどんスピードは上がり、カーブで立ち乗りの乗客の体は大きく傾く。そうこうしているうちに飛行機の前に到着。離陸が10分ほど遅れた。この遅れが、南昌市でのホストファミリーの対面式を遅らせることになった。空港に着くと、南昌市外事弁公室の陳主任と毛副主任、そして甘（カン）さんたちが「歓迎」と書いた赤い横断幕を持って出迎えてくれた。遅い到着を待って頂いて、申し訳ないやら嬉しいやら。一同南昌市の空港からバスに急い



ようやく南昌市だ！

で乗り込む。午後10時の対面式は20分遅れで始まった。受入家庭のみなさんは、私たちを笑顔で待っていてくれた。子どもたちの中には眠たい子もいたであろう。この時点で、喉が痛いなどの不調を申し出たのは2名、発熱していた団員は36℃台になっていた。ホストファミリーに状況を説明し、午後11時ごろ、ようやく全団員が無事にホストファミリーの家へ行った。



ドキドキの対面式

### 3月28日(月曜日) 使節団3日目

●南昌

午前中の予定が、翌日の予定と入れ替わりになり、中学校の交流会がこの日になった。昨晚の疲れが取れないまま、国際交流の本番に挑むことになった。当日の出し物の忘れ物などヒヤットすることもあったが、受入家庭と外事弁公室の皆様のご協力により、外堀は固めることができた。後はうまく実行するのみ!



校門での熱烈歓迎

午前9時20分南昌市第二十七中学校に到着。生徒たちが赤い花を両手に持ち、道の両脇に立って熱烈歓迎をしてくれた。団員たちは、この歓迎ムードで疲れ顔から笑顔へと変わった。校舎に案内され、6階の会場には、およそ120名の生徒が座っている。私たちも前の方の椅子に案内される。呉校長からのあいさつの後、我々が団長のあいさつ、そして二十七中学生の素晴らしい踊りが披露された。交互に出し物を出す形で、高松側第一演目の前に、秋山さんがあいさつをした。緊張からか、合唱はボリューム不足だったが、手遊びは楽しそうに演じていた。観客となる二十七中学生の中には手遊びの振りを覚えようとしている子もいた。いいぞ!その調子だ!続いて、二十七中学生の中国琴と縦笛の演奏が終わり、



ハンカチ落としの様子

2番目の演目、一班のハンカチ落とし。ステージで、若宮君をはじめとする班のメンバーがルール説明をした後、客席後ろのスペースで参加者を募り、大きな三つの輪を作り、二班のメンバーも輪に入り、ゲーム開始。なんとなくいい感じで理解されて楽しんでいる!ここのフロアは石の様なタイルが敷かれており、勢いよくカーブを走ると滑る。慣れない団員の数人が転倒。足は痛いですが、それでも笑顔でなつかしのゲームを中国の中学生たちと本当に楽しんでいた。





二十七中学生と一緒に踊る団員達

なんとか正解に移動した男子生徒たちが優勝し、中村さんたちが折った折り鶴の賞品とアメを手渡した。その後「幸せなら手をたたこう」の踊りを二十七中学生が披露。曲の2番目に差し掛かったところで、生徒が、団員をステージに誘導。日中で、音楽に合わせて一緒に踊るといった楽しい場面もあった。

そして最後の「一合ました」は練習時間が明らかに足りないはずなのに、彼らは、すんなりこなしたので驚いた。本当に良くやったと思う。今回の団員は人数が少なく盛り上げるのは困難かと思っただが、やってのけたことに感激。お疲れ様！



一合ましたの様子

その後、受入家庭の生徒たちと一緒に学校の食堂で昼食会が行われた。こちらの学食は、ボリュームはもちろんだが、野菜がふんだんに使われており、しかもおいしい。さすがに大人はこの量は無理だと思ったが、前に座っている校長、教育局副局長（女性）はサクサク食べて、デザートフルーツを召し上がっている。このパワー、この元気が今の中国を突き動かしているのではないかと感じた。子どもたちは、英語や、メモでの筆談などで各々コミュニケーションを図っていた。



程 慧明さん（右手前）と昼食

この日はホストシスターの程 慧明（チョンホイミン）さんのバースディイブだった。中学校の計らいで、大きなケーキ（50x40cmくらい）が登場。彼女は翌日の誕生日で12歳になるが、2学年飛び級をしていて現在中学2年生。みんなでハッピーバースディを歌って祝福。団員にとっても、いい思い出になった。ケーキはバタークリーム。クリーミーで甘さ控えめでおいしかったが、先程のランチの直後だったので、お腹がいっぱいになった。

中学校を後ろ髪引かれるような思いで後にし、梅湖、八大山人のアトリエだった記念館へと向かう。湖にはボートが浮かび、恋人たちが芝生の上でポカポカ陽気の季節を楽しんでいる脇をトラムバスで移動。また古風な風景をバスで巡るというシチュエーションは、まるで中国風ユニバーサルスタジオ。そうこうするうちに一同記念館前に到着。ここは中国の有名画家、書家として知られる、八大山人の作品のリトグラフが並んでおり、彼の素晴らしい構図の作品や、草書作品を

見る。八大山人の遺品が埋蔵されている塚を拝見し、一同今度は彫刻家の個展を見に移動する。南昌市のある江西省は、中国の中でも文化人が多く輩出されている。

午後3時半、会員制巨大スーパーマーケット「METORO」に到着。まとめ買いサイズが基本のスーパーで菓子類のお土産を買う、という子もいれば、ここで買わないという子もいて、スーツケースの荷詰め作業に大きな差が出ることになる。午後4時過ぎ、日中友好会館で団員をホストファミリーにお願いする。

午後7時半、南昌市外事弁公室、教育局の方々と、第二十七中学校の校長先生たちに案内され、山道さんと十河君のホストファミリーを訪問する。

山道さんの受入家庭をしている、黄 自牧（ハアンヅム）さんのお宅は、住宅街にそびえ建つマンションの最上階で、お邪魔したときは、おばあちゃんとお母さんは夕御飯の後片付けをされていて、お父さんがリビングで接待をしてくれた。自牧さんの部屋にお邪魔した。女の子らしいカーテンにベッドカバー、アップライドのピアノがベッドの横にあり、山道さんが「自牧さんはピアノが上手なんです。」と話している



黄 自牧さんの部屋

と、弟が日本の名曲「さくら」を演奏！なじみの曲を異国で聴き、テンションが上がる。弟さんも上手。その後、真打の自牧さんが演奏をする。譜面どおりに演奏するバイエル的な演奏方法ではない情緒的な演奏に感動。その後、黄家が所有する屋上にお邪魔し、花火をすることになったが、日本でもよく見る手持ちの花火はさわりだけ。手持ちロケット花火を屋上から打ち上げる様子に驚いていたら、箱形の爆竹が登場。20連発ほどの爆竹が真上に飛び、火花が降りて来る。どこに逃げても降りて来る。日本では到底考えられない騒がしい状態だが、こちらでは、没関係（メイ クァン シ）、問題無いらしい。黄家は縁起ものの爆竹で、私たちを歓迎してくれた。



丁 世沖くんのお宅にて お茶接待

興奮冷め止まぬまま、黄家と山道さんと別れ、次なるお宅訪問は、十河君の受入家庭をしている丁 世沖（ディン シチョン）君のお宅。コンドミニウム風の低層階マンションで、そのマンション群に入るまでにゲートがあり、警備員に行き先を伝えないとゲートが開かないというような所。リビングで家族にご挨拶し、早速お部屋訪問。世沖君の部屋は入り口近くに勉強机があって、奥にベッドがあったが、勉強機の電気以外は暗く、よく見えなかった。しかし、

その机の横に置いてある宿題の山にびっくり！パソコンのデスクトップまではいかないまでも積み上がっている。さっきまで取りかかっていた宿題は英語。過去の問題は○が多かった。どうりで彼の英会話の理解力は、いいはずだ。十河君が使っている部屋は床をびっしり埋めるように存在するベッド。これならどんなに疲れて寝相がすごくなっても、落ちない。リビングに戻ると何やら烏龍茶のお茶会が始まっていた。教育局副局長にお茶を勧められ、いただく。ホストマザーが、十河君がとてもシャイなので、時々これで大丈夫か不安だ、と心配していた。どこの世も母は子どもの様子が気になるのだ。十河君と世沖君の反応を見る限りうまくいっていると思ったので「こ

の年頃の日本の子どもは、こんな感じなんです。彼は楽しんでますよ。大丈夫です。」と答えた。学校、市、使節団引率がソファに座っていると、両親、他の関係者が座れるように、世冲君が、何も言われずともダイニングからイスを運んだ。いいご家庭だった。

どちらのお宅も、10名弱の関係者を快く招いていただき、本当に有難かった。

### 3月29日（火曜日） 使節団4日目 ●南昌～北京

午前8時、本日も晴天。日中友好会館でホストファミリーと別れる。西欧風なハグなどの別れは見受けなかったが、ちょっとしみりホストペアレンツと別れのシーンもあり、2日間で、家族として受け入れてくれたのだなあ、感慨深かった。昨日訪問できなかったご家庭も団員たちに、景德鎮の陶器をはじめ、沢山の土産や、道中食べるようにとフルーツや水ももらっている様子を見て、言葉も通じない中、お腹をすかせないように、楽しい思い出を持って帰って欲しいという一所懸命な気持ちが伝わってきた。同時に、昨日のスーパーの買い物と重なりパンパンの手荷物の団員に、飛行機に乗れるか不安を感じた。

午前9時、滕王閣見学。唐の時代から何度も建て直されて、その姿形、場所も変わっていると聞き、驚く。私たちが見学するこの建物は、1980年代の鉄筋コンクリート製。上層階の演舞場では、舞踊と楽器演奏が披露されていた。銅鐸のような鐘とサヌカイトのような石を叩いての演奏は神秘的。立ち見だったが、一同聞き入っていた。滕王閣からのベランダからの景色は最高。敷地外の道路は現在地下道路建築中とのことだった。これもこの年ならではの風景だろう。閣の前で記念撮影。ここの庭には「桜花」と名札を付けた桜が咲いていた。外事弁の甘さんが、私たちが来るまで寒かったが、ここ数日で暖かくなった。皆が春を連れてきたのかな、と言ってくれた。



滕王閣にて

午前11時、羅 慧芬（ラ ケイフン）副市長の表敬訪問の場所へ向かう。そこは、立派なホテルの一室で、フッカフカの1人掛けソファの横にはネームプレートが置かれていた。さらに正面に団長と、副市長のソファがあり、団長をはじめ全員腰掛ける。副市長が上座に座ると、表敬訪問スタート。副市長からのあいさつ、そして団長からのあい



羅 慧芬副市長と記念撮影

さつ、プレゼント交換の後、団員の自己紹介。研修の成果を発揮できる子は、中国語で自己紹介をした。団員代表で、十河君があいさつをした。部屋を替えての歓迎会では、フレンチの様な形式の中華料理だった。松を食材であしらった絵皿の様な前菜から始まり、どれも今まで頂いた食事とは、格段にゴージャス。この後の印象的なプレート



巨大麻球

は二つ。南昌市北東にある、巨大な湖、鄱陽（ポーヤン）湖で栽培された水草の藜蒿（リ ホウ）の炒め物。南昌料理はトウガラシがたくさん使われるので、団員の中には食べられない子もいたが、エンサイ（別名：空芯菜）よりも細く、苦味もなく歯触りが良い。そしてもう一品はデザートに出た、直径12cmもある麻球と言われるゴマ団子。

中にはあんこがなく空洞になっている。顔さんも、あれだけ大きな麻球は食べたことがないと言っていたくらいだから、そうとうなスペシャルサイズだろう。一同ごちそうを頂き、満面の笑み。副市長との記念撮影後、お土産まで頂き、市内観光へと出かける。

午後1時すぎ、南昌の新区へと橋を渡る。そこから見えるのはきれいなマンションと巨大な観覧車。団員の中には、ホームステイ中、この贛江（カンコウ）市民公園にホストファミリーと夜に遊びに来ていた団員もいて、楽しいひと時の話をしていた。確かにここは、夜のライトアップが美しいので、来られた子たちはいい思い出になったことだろう。建って5年目になる大観覧車は、お色直しのため休業していたが、南昌市の特別な計らいにより、運転され、貸し切り状態で乗る。いい天気と、どこまでも広がる平地。土産話ができるくらい、写真もたくさん撮った。観覧車を後にし、昨年、高松市・南昌市友好都市提携20周年記念市民訪問団が記念植樹をした場所を訪れる。ここにはそれを記念する立派な石碑があり、各自写真を撮った。これから、もっと大きく、そして地に根を張って育てて欲しい。



サロンでの様子

午後3時、南昌商学院へ向かう。この日本語科（日本語クラス）の学生が待ちに待った状態で、私たちが熱烈歓迎してくれた。副院長の袁さんからの流暢な日本語でのあいさつに、団員の中から「日本人？」と口から出てしまうくらいだった。副院長の案内で、まず外国語のサロンに入る。カフェの様にソファや、テーブル席があり、団員は好きなところへ座ると、空いている席を奪うかのように学生が「我も、我も」と座り、日本語で会話をする。この積極性、国際交

流には重要。彼らの真摯な姿勢を学んで帰って欲しいなと団員の様子を眺めた。私たちが待ち受け、サロンで話した学生はごく一部で、1年生は「ソーラン節」の稽古をしていると案内された。中学生の交流会で、附属中学の子は踊れるということを知っていたので、踊りなさいと促す。（いや、促すのではなく、ここは「一緒に踊りたい！」と言って欲しかったなあ。）踊りの様子は、デジカメ動画で撮影。ここぞというところで、ちゃんとできる団員たちに再び感動。感動を胸に教室に案内されると、不思議な授業風景。プロジェクターに出されている日本語は、ドラマか、マンガの台詞。それを感情込めて発音するというクラスだった。そこに団員たちもお邪魔し、



ソーラン節を踊る団員たち

男子3人に台詞を言ってください、と先生から指令が出た。嫌がる3人。（「俺ってカッコいいんだぜ！」って、普段言わないよね。）若宮君はこの台詞を照れながらも、2回熱演。十河君も松村君も別の台詞で、大学生たちに日本語の発音、抑揚を教えることができた。男子が頑張った次は、女子にも難題が与えられた。キャンパスで日本語コントの練習をしている生徒たちに、同じ台本で演じて欲しいというのだ。やはりここでも誰がやる！？ということになったが、松本さん、檀浦さん、柚原さんが演じることになった。いいぞ！積極的になってきた！！上司と部下、取引先の偉い人の中で繰り広げられる話。オーディエンスの学生は、彼女たちの日本語を真剣に聞き、妹のような団員たちの演技を微笑ましく見ていた。盛大な拍手。こんな経験、日本にいた



キャンパス内にて日語科男子学生と

ら、なかなかできないだろうな、と感じる光景だった。その後、私たちは、大学生の生活を見せてもらった。5000人全寮制のこの大学は、一部屋に5人から6人で共同生活をしている。壁の両脇に机が3つずつ並び、その机の上にはベッドがある。男子の机の上にはデスクトップのパソコンがスペースを取っていたが、女子の机には化粧品なども置かれ、パソコンは、ベッドに置かれている作業机で使うと言っていた。一人っ子で生まれても、このような共同生活を

4年経験するなら、社会に出てもギャップは少ないだろうなと感じた。この日語科は女子が大半で、男子が少なく、しかも女子が強いとこぼし、ちょっと共感する団員の男子3人であった。

この学院で団員は、本当にのびのびと交流ができていたように思う。短い訪問で、もっと話したかったと思うが、もう北京へ向かう時間。午後5時、バスに乗る。

午後6時、南昌空港到着。外事弁公室 陳主任、甘さんが見送りに来ていたが、6時40分発の便なので、きちんとあいさつをする間もなかった。というのも、やはり検査が厳しくなっているので、時間がかかるのだ。今後の旅で必需品の飲料水をスーツケースに詰め、トランクを整理。手荷物の検査も相当厳しかった。ホストファミリーからもらったスノーボールも水が入っているので、捨てられるということになった団員がいた。その状況を知り、団長、顔さんで交渉の末、廃棄されることなく戻ってきた。本当に良かった。ゲートの前に着くと、まだ掲示板は、前の便のまま。列に並んでしばらくしてゲートが開き、搭乗する。午後9時半、北京首都空港到着。北京ガイドの黄（ホアン）さんの案内で、レストランに向かう。軽い夕食と聞いていたが、普通に中華料理が出てきた。ここまでで団員の疲労はピーク。食事の時間も不規則なので、食欲が不安定。睡魔と戦っていた団員の中には、南昌とはまた違う美味しい料理に目が覚め、中にはモリモリと精力的に食べる子もいた。

午後11時、北京長安大飯店到着。このホテルは、首都にふさわしい高級感あるホテルだった。各自指定された部屋へ移動、上海とは様式の違う風呂などに戸惑う団員や、インロックしてしまう団員もいたが、熱を出したり寝込んだりする団員はいなかった。

### 3月30日（水曜日）使節団5日目 ●北京

朝9時、黄さんの案内で、天安門広場に出発。この時間は朝の通勤ラッシュで一時間弱バスに



見よ！この広大な式典広場！

揺られ到着。公安の数が、今まで行った観光地のどこよりも多い。中国を象徴する場所に降り立ったということを感じさせられた。広場は広大すぎて、観光客がまばらにいる様に見えるが、地下道や入り口という狭いところに集まると、結構な数。そして並び順はお構いなし。どおりで現地ツアー客は同じ色のキャップを被るわけだ。列を縫うように人が抜けていくので、団員も

3グループぐらいに天安門をくぐる前に離れてしまった。なんとか全員、はぐれず集まり、罪人の処刑場所だったという午門をくぐり故宮へ向かう。映画「ラストエンペラー」「楊貴妃」「西太后」で見た世界があり、感動。山吹色の陶器瓦が印象的だったが、これは、皇帝の敷地の瓦だからだそうで、山吹色、朱色を好む中国の人々の嗜好に納得できたような気がした。午前11時半、押し合い圧し合い、ようやく故宮の門を出た。迷子もなく全員無事、万里の長城へ向かう。途中、立派な石垣の名残りがあある徳勝門を脇に見る。かつてここからが北京郊外だったそうだ。20分程して、国営の観光休憩所に停まる。ここは七宝焼きの製作見学ができるそうで、巨大な七宝焼きの壺や、掛け軸などが販売されていて、どこかで見たことのある様な土産品が数多く並べられていた。昼食は今までの中華料理と一味違うものだった。マトンのしゃぶしゃぶ。臭みがなくとてもおいしかった。他には、しいたけ、日本の物ほど香りがなく食べやすい春菊、甘みの無い高野豆腐、ビーフン、そば、タレはゴマだれ、醤油、ラー油、ニンニクなどの薬味を器に入れて、好みで作る。これがまた楽しく、あっさりしているので食べやすい。団員の中には、黒酢でポン酢を作成し、モリモリ食べる子もいた。



美味！マトンしゃぶしゃぶ

お腹も満たされバスに乗る。しばらくすると高速も坂道になり、車窓から見える山には、かつてモンゴルからの侵略を避ける為に秦の時代から造られた長城が見えてきた。午後2時すぎ、万里の長城入口に到着。寒いと言われ、防寒に備えていたが、ネットの天気予報のとおり、都心より少し低い14℃。意外と暖かい。ここから、自由行動。若い団員には、行きすぎない様に、4つ目の櫓まで行って帰って来るように伝える。今年は日程全てが天気に恵まれ、本当に良かった。

午後3時、集合時間になっても団員が広場に集まらず、ヒヤヒヤした。入り口近くの土産物屋にいたことがわかり、ホッとし、バスへ乗り込む。オプションの中国雑技団のショーを見る予定だったので、この時間は絶対だったのだ！入場料200元、少々高いが、全員何とか現金を残して席を予約してもらった。

午後5時すぎ、上演15分程遅刻して、館内に入った。サーカスの様なイメージだったが、ここはステージに観客席という劇場で上演する雑技団で、狭い空間の中、見事な演技と演出が出来上がっていて、素晴らしかった。中には、団員と変わらないくらいの年齢の子どもたちがプロとして頑張っている姿を見て、拍手喝さいをせずには、いられなかった。



Happy Birthday!

午後7時、北京ダックが食べられるレストランに到着。これを楽しみに待っていた団員もいて、かなりテンションが上がっていた。が、部屋の片づけが間に合ってなくて、すぐに入れず、我慢する。ようやく部屋に入り、テーブルに着く。実はこの日は、看護師 金崎さんの誕生日。金崎さんにパンダの冠を乗せ、大きなケーキが登場！ハッピーバースデイを歌い、祝う。外事弁公室の陳主任から、素敵なプレゼントが贈られた！金崎女王様、きれいです！ここで、一同打ち上げスタート！乾杯して、念願の北

京ダックをほおぼる。おいしい！料理のシメは、ホワイトチョコレートがふんだんに使われたパースディケーキ！胃袋が壊れたのかと心配になるくらい、豪快な食べっぷりの団員が、料理・ケーキ・



料理・ケーキと食べていた。こんなにハードスケジュールなのに、よく頑張りました。m(\_ \_)m

午後9時、ホテルに戻る。翌日は早朝5時半出発ということで、寝ずに部屋に集まり、最後の夜を過ごすという団員もいた。無茶をしないようにと、まわりの部屋への配慮をするよう、釘を刺し解散。



Make a wish!!

憧れの北京ダックをガブリ！

### 3月31日（木曜日） 使節団6日目 ●北京～高松

午前5時起床。昨夜ほぼ徹夜の女子も含め、ほぼ全員起床していた。5時半、ロビーに集まる。まだ数名来ていない。スーツケースがまとまらず、時間がかかったらしく、遅刻。

全員パスポートの確認をし、出発。朝の北京の道路は夕方ほどではないが、余裕の時間は無い状態で空港に到着。スーツケースをここで整理する子もいたが、時間がない。慌てて用意させる。顔さん、ガイドの黄さんにお礼をし、ゲートに入る。顔さん、本当にお疲れ様でした！再見！！

大連経由の飛行機に乗り込むのだが、手荷物検査では、放射能検査も受けた。改めて震災被害に遭った日本人なのだと感じる。無事に搭乗。だが、なかなか飛び立たなかった。エンジントラブル？燃料が足りないとか？30分程客を乗せたまま、飛行機は滑走路手前で待機、ようやく飛び立った。大連へ到着したのは、10時すぎ、出国手続きをし、ゲートを探す。経路だからか、チケットのゲートの番号に来てても何やらおかしい雰囲気。モニターに大連行きの飛行機のゲート番号が出ないので、困っていたら、搭乗締め切り時間ギリギリで表示され、慌てて移動する。ようやく搭乗すると、あれ？さっきと同じ飛行機？出国手続きさせるためだけに降ろされたようだ。岡山空港に30分以上遅れて到着、入国手続きをし、空港で冷たい飲み物を自動販売機で買う。しばらくぶりの冷えた飲み物と、そして、こういうのを飲みたくなる気温になっていることに驚いた。空港近辺も行きの様子とは打って変わって、春の日差しが照らしていた。顔さんに到着の連絡、そして協会、高松市に到着を伝え、予定より40分遅れの午後4時半、アイパル香川に到着、そして解散式。檀浦さんがあいさつをし、全員無事帰国することができたと再確認、ホッとする。団員全員で記念撮影。疲労の色が隠せない写真となった。（苦笑）

第19回の団員は、本番に強い子たちだなあと感心させられる半面、研修会では想像もつかなかった、大丈夫か！？と思う様なこともあったりして、気が気じゃない子たちだった。彼らは、まだまだ成長段階。子どもじゃないけど、大人じゃない彼らの長い旅は、これからが出発。これから将来、どこかの人生の場面で、この経験が反映されることを期待している。

（報告：森田由起子）



疲れが隠せませんが、いい顔です！



# 感 想 文

## 親善交流と友情の輪



(財)高松市国際交流協会 常務理事・事務局長

大山 利尋

第19回高松市中学生訪中親善使節団一行14名は、平成23年3月26日(土)に高松を出発、友好都市南昌市を訪問し、ホームステイや現地中学生との交流をはじめ、中国の雄大な自然や歴史ある遺跡を巡り、31日(木)に6日間の日程を終え、全員元気に帰国しました。

訪問直前の3月11日には、東北地方で巨大地震が発生し、津波で多くの方々が亡くなり、また、行方不明となるなど、大きな被害が出ました。現在も、被災者の方々は大変厳しい避難所生活をしておられます。心よりお見舞い申し上げます。

地震発生後、各地で、様々なイベントの自粛ムードが高まりましたが、幸い、高松は地震の影響がなかったこと、また、このようなときだからこそ、日本の元気を伝えたいという思いで出発しました。

訪問を終えて、南昌市との友好の絆をさらに深めることができ、そして、様々な交流の中で、団員達が多くのことを学び、友好親善と友情、そして中国への理解を深めてくれたことに団長として感謝いたしますとともに、私自身、何とか無事大役を果たせたことに正直ホッとしています。

高松市と南昌市は、昨年、友好都市提携20周年を迎え、両市で様々な記念イベントが開催されるなど、これからも永く続く友好親善を誓い合いました。私も、昨年の10月、市民親善訪問団の一人として参加し、南昌市の方々から、熱烈に歓迎いただいたことを思い出し、今回、再び南昌市を訪問できるのを、団員同様、心待ちにしていました。

そんな中、南昌市人民政府表敬訪問では、羅慧芬副市长から、温かいお言葉や心遣いをいただき感激しております。また、団員達も、片言ではありますがしっかりと中国語で自己紹介をすることができました。

今回の大きな目的の1つである、南昌市第二十七中学校訪問では、呉方年校長先生をはじめ、職員の方々、生徒から大歓迎をいただき、踊りやゲーム、クイズなど、事前研修で一生懸命練習してきた成果を披露し合い、素晴らしい交流となったほか、ホームステイでも、ホストファミリーの温かい雰囲気の中で、お互いの友情を育むことができたことなど、市民親善大使として、中学生の目線に沿った親善交流をしっかりと果たしてくれた団員の皆さんに改めて感謝いたします。

このほか、今回初めての試みとして、中国の大学で日本語を学ぶ中国の学生との交流の機会が設けられ、中国の大学生から日本語で質問攻めにあうなど、和気あいあいの雰囲気の中で、楽しく、有意義な交流をすることができました。お世話をいただいた、南昌商学院の袁瑾洋副院长先生、本当にありがとうございました。

今回訪問した南昌市、上海市、北京市は、長い歴史を持つとともに、近年の発展は素晴らしいものがあります。現在の中国の活力を、団員の皆さんは肌で感じ取ることができたと思います。今回の体験を、是非自分の将来の目標に活かして欲しいと思います。

次世代を担う中学生達が、お互いの国を訪問し、様々な体験をしたり、知識や理解を深めることは、自分の人生に大きなプラスになるとともに、高松・南昌市の友好親善に寄与するものと思います。

最後になりましたが、今回の訪問に際して、南昌市外事弁公室の陳吉煒主任を始め、訪問中、最初から最後まで私達の面倒をみてくださった顔志雄さん、そして、南昌市の皆さんには大変お世話になりました。心より感謝申し上げますとともに、これからもより一層、高松・南昌両市の親善交流と友情の輪が広がることを祈念いたします。



羅慧芬副市长に高松市長からのメッセージを手渡した



南昌市第二十七中学校呉校長と

## 中国で迎えた誕生日



高松市民病院 主任看護師

金崎 ゆかり

中学生訪中親善使節団が3月26日中国への出発の朝が来ました。アイパル香川に集合した時、団員の一人が発熱と嘔吐・下痢で座り込んでいました。大変だ!! 本人と母親に確認し、一緒に行くことになり、海外でひどくならないことを願って上海に向けて出発しました。上海空港に無事到着、バスで上海見学に出発しましたが、団員の子の体調は大丈夫かな? 飛行機とバスの移動中はずっと寝ていたし、とても心配でした。しかし、上海タワーにも上ってお友達と写真も撮れて、だんだんと少しずつ良くなってきたようでした。夕食はレストランで本場の中華料理、なんとそのレストランで結婚式が行われていました。結婚式を見ながら食事をしました。日本では考えられない光景でした。中華料理は大皿に盛った料理が次から次へと、食べきれないほど出てきて、思っていたほど辛くなく、子供たちもたくさん食べていました。

翌日は体調の悪かった子も熱が下がり元気になっていました。上海動物園に行き、パンダが間近に見られて子供たちは「かわいい」と興奮気味。豫園では人の多さと広さにびっくり、子供たちは値切って買い物をして楽しんでいました。いよいよ南昌に夜遅く到着、南昌市の職員の方やホストファミリーの方たちが熱烈大歓迎のお出迎えをしてくれました。子供たちの体調の状態を伝え、それぞれがホストファミリーと共にホームステイ先に帰って行きました。

28日は予定変更で南昌第二十七中学校へ、いよいよ練習の成果を発揮する時が来ました。研修の時は消極的で元気がなかったので少し不安でしたが、ハンカチ落としやクイズで大盛り上がり、歌や手遊びも上手くでき、高松まつりの踊りは私も参加して一緒に踊りました。南昌の中学生から一緒に踊ろうと誘われ、子供たちに混ざり楽しませてもらいました。南昌の中学生は華やかな衣装を着て、ダンスや歌の披露はすばらしいものでした。昼食はホームステイ先の子供たちや先生方と一緒に給食をいただきました。ここでの交流はとてもいい経験で、子供たちの一生の思い出に残ることでしょう。

30日は北京での観光は中国のスケールの大きさや歴史の重みを感じました。夕食は北京ダックが食べられると子供たちは大喜び、テーブルの席に着いたとき、嬉しいサプライズがありました。この日は私の誕生日であり、まさかお祝いをしてもらえるとは思っていなかったので、びっくりしました。ビッグサイズのケーキがでてきて、頭には王冠をつけ、みんなが祝福してくれました。たくさんの人に囲まれてお祝いをしてもらい、一生忘れない誕生日になりました。プレゼントまでいただき、ホテルの部屋にも、またまた誕生日ケーキが用意されていました。感動、感激、感謝です。南昌の陳さんをはじめ皆様に感謝です。「謝謝」

最初はどうなることかとハラハラしましたが、無事に帰国でき私の役割は終わりました。ほっとしたと同時にちょっぴり寂しいような…この体験は私の宝物として大切な思い出になりました。南昌市外事弁公室の皆様、同行の顔さん、大山団長、森田さん、団員の皆様、本当にお世話になりありがとうございました。



女子は全員ピースサイン!! 男子は??



女王様気分が最高?

## 帰国してからの国際交流を考える



(財)高松市国際交流協会 事務局員

森田 由起子

今回の訪中団は、出発するまでに色々ありました。尖閣問題、それによるデモなどの混乱、そして出発前に東日本大震災による原発の問題が発生し、世界がピリピリと神経質になってしまったこと。何度今年には行けないのではないか、と思う事もありましたが、南昌市外事弁公室の方々の歓迎のお言葉に、救われました。有難うございます。

まだ2月の気候を引きずったままのような寒い3月26日、私たちは出発することになりました。岡山空港までの道中、雪を車窓から見たとき、今後の天気が気になりました。経済発展が目まぐるしい上海へ着くと、空が青く天気は良く、現地はみなぎるパワーでいっぱいでした。団員もその活気を吸い上げるように、訪中を楽しんでいました。こういう無邪気な様子を見ることができて、正直ホッとしました。

研修会で実感していたのは、団員が大人しいということでした。地元を離れ、どう変化するかが、彼らが、この6日間をどう感じるかに繋がります。彼らの真の目的は、国際交流。いかに現地の方々と関わりあえるかということが、私にとって一番気になる点でした。

3月27日、はにかみながら南昌市の受入家庭の方たちと対面。「研修会の様な静かモードはあかんでえ」と念じながら、記念写真を撮影し、帰路に発つ団員達を見送りました。どんな想いで、家庭内で交流したのか、彼らの感想文をじっくり拝見すると、学校訪問の交流会は、本当に盛り上がる事ができたと思います。私の半分くらいは不安は、飛んで行きました。人数が少ない団員の中で、班を超えて助け合う精神も素晴らしかったし、本番で120名という数にのまれず、元気に楽しんだことは、彼らの本当の姿だと思いました。そして、「また二十七中学校に戻りたい」と言った、その言葉は、本心であり、意思を発言したということであり、静かだった研修会からは大きく変わっていて、本当にいい顔でした。

良いものは、良いね！と自分の意思をはっきり伝える。伝えたい人の話をよく聞き、気持ちをくみ取ること。そして、ちょっとしたユーモアさえあれば、どこでもやっていけます。今後、南昌市第二十七中学生の訪問団を受け入れる機会もあります。せっかく学んだ国際交流のコツ。この機会に、是非もう一度チャレンジして、自分の能力にして欲しいものです。

私は、出発前、彼らと年代の震災孤児が増えている現状をニュースで見たとき、団員には、「自立へのきっかけ」を国際交流という大題目以外にも考えて欲しいと思いました。それは海外や、逆境で生き抜く力の第一歩です。皆には、時にきつく言ったと思います。団体活動の時は、日本のルール。ホームステイは、海外のルール。瞬時にその場のルールに適応するというのも、国際交流には必要な能力であるという事は、今後も覚えていて欲しい事です。

第19回の団員は、いざ！というとき、できる人ばかり。今回の訪中をひとつの大きな自信にして、自ら能動的に、積極的に成長してくれることを期待しています！！

そして、団員の成長の一過程を担ってくださった、南昌市の方々には、感謝しても全然足りない程、お世話になりました。これからも、心の目で見る友好の懸け橋を、守り続けていけるよう、頑張っていきますので、今後もよろしく願いいたします。



金崎さんを雑技団風に祝う



盛上った最後の晚餐

## 人の優しさを知った中国旅行



高松市立高松第一中学校 1年

山道 菜々子

「頭が痛い！」そして、私の5泊6日の中国旅行ははじまりました。

その朝私は、とても頭が痛く立ち上がることもできませんでした。そのうえ、とても体も熱く頭もボーッとしていました。急いで熱をはかると38度もあり、家族も出発できるのかととても心配していました。

アイパルの玄関前に集合だったので急いでいくと、もうたくさんの方が集まっていました。母は看護師の金崎さんと森田さんに事情を説明し、その間私はずっと座りこんでいました。すると金崎さんや森田さんが私に、「無理をしないでね。」と声をかけてくれました。私は以前からこの旅行をととても楽しみにしていたので、実は笑顔を作る事もきつかったのですが、「絶対に行く。」と固く決意しました。

私は飛行機の中でゆっくり休みました。するといつのまにか中国についていました。私たちはバスで移動し、夕食後テレビ塔をみにいきました。とても大勢の人がいました。そして、歩行者天国にもいきました。ここも人がいっぱいでした。また何色ものライトがとてもあざやかでした。1日目は移動ばかりでしたがまだ体調は大丈夫でした。

2日目。朝急いでホテルを出ようとした時お土産店あったので見にいってみると、店員さんが日本語が通じてすごく値切ってくれました。上海動物園はとても広くて驚き、次にいった博物館では、中国語の案内文に何が書いてあるのかさっぱりよめず、とても難しく感じました。

そしていよいよ南昌へ向かいました。南昌に着くともうホストファミリーの人達が待っていました。私はホストファミリーの黄自牧さんと握手をした時、とっても緊張しました。

黄さんの車に乗り家に向かいました。黄さんの家はとってもきれいで私のために個室を準備してくれていました。黄さんのお母さんが体調が悪いことをきいてふとんをあたためておいてくれました。本当にうれしかったです。

3日目。私たちが中学校に着くとみんなが拍手で迎えてくれました。第二十七中学生の踊りなどはすごく上手でした。私は何回も失敗をし、ハンカチ落としでもスッテーンところんでしまい、すごく恥しかったです。でも、楽しんでもらえたのでホッとしました。

副市長さんと食事をいっしょにとりました。次々とだされる料理には変わったものやとっても辛いものがありました。やはり中国の食べ物は辛かったです。

ホームステイの家では冬なのに花火をしました。なのでびっくりしました。バクチクもボンボンあげていてすごく楽しかったです。でも今日でお別れだと思うとすごく淋しいです。最後の日を楽しく過ごす事ができてよかったと思いました。

4日目。朝ホストファミリーとお別れをしました。

5日目。ホテルを出て故宮博物館や天安門広場や万里の長城にいきました。1番楽しみにしていたのですが、早速登ってみると思っていたより急でした。なのでハアハアと息を吸ったりはいたりしていました。

今日の夕食では北京ダックを食べました。また、金崎さんの誕生日だったので大きなケーキがだされ、みんなで食べました。どちらもとてもおいしかったです。

明日はいよいよ日本へ帰ると思うと短かったなあと思いました。また、もっといたいなあとも思いました。

今回、中国に行ってみて中国の人達と言葉が通じなくても心は通じあうんだと身をもって体験できました。そして、旅行中たくさんの人に心配をかけたけれど本当に優しくしていただきありがとうございます。無事に私の夢がかなない中国研修に参加できたのもみんなのおかげだと思います。すばらしい人々や友達とめぐりあえて楽しい時間をすごせたと感謝しています。

私は帰国後いろいろなボランティア活動に参加しています。これからも中国で学んだことや体験したことをたくさんの人につたえていこうと思います。 謝々(ありがとう)!



きつかった万里の長城



ホストシスターの黄 自牧(ハンズム)さんと弟  
そして友達と一緒に

## 楽しかった6日間



高松市立高松第一中学校2年

秋山 実穂

私は、海外旅行デビューの中国で、たくさんの思い出を作って、初めてのことをたくさん経験しました。さすが広い中国だけあって移動が多くて疲れたけど、とても有意義な時を過ごすことが出来ました。

上海で1番楽しかったのは、上海動物園です。ぬいぐるみのようにきつかわいいだろうと楽しみにしていたパンダは、想像以上にぐたーとしていてオッサンぽかったです。でも、その近くにいたレッサーパンダがとてもかわいかったです。

南昌では何といってもホームステイが楽しかったです。対面式の後、日中友好会館からホストシスターのハエインの家に行くまでは、緊張しすぎてほとんど話せませんでした。でも、次の日の夜に秋水広場に連れていってもらった時にはたくさんではありませんが、二人で楽しく話して、心から笑いあえるようになっていました。広場で二人で乗ったゴーカートはとても楽しくて今でも心に残っています。

南昌第二十七中学校の交流会では、出し物を見るのがとても楽しかったです。みんなでいきなりステージに連れていかれた時はびっくりしました。「幸せなら手をたたこう」のたぶん中国語バージョンの歌で、みんなで見よう見真似で踊りました。日本の歌が中国でも歌われていることに少し驚きました。私達の出し物の時も向こうの中学生の人達が楽しんでくれていそうだったのでうれしかったです。

南昌商学院では日本語学科の人達と交流しました。どの人もすごく積極的に話しかけてくれました。日本語同士の会話だったので、いろいろな話ができました。私が話をした人の中には、将来何になりたいかはっきりと夢を持っている人がいて、すごいなと思いました。また、見学したサークルの中に日本のお笑いが好きな人がいて、中国でも私の好きなお笑いの人達を知っている人がいて驚きました。

北京の万里の長城は、とりあえず大きくて、広かったです。教科書に載っていた写真と全く同じような景色がバスの窓から見え「すごー！本当に万里の長城に来たんだ！」と思いました。登るのはとても急でしんどかったけど、登り切った後はとても気持ち良かったです。

急遽見るようになった雑技団では一つ一つの技のレベルの高さにとても驚きました。テレビとは違って目の前で披露される演技は見ていてドキドキしましたが、スリル満点でとても楽しかったです。

私は今回中国を訪れて思ったことが3つあります。

1つ目はとにかく何に関しても日本に比べてとても広い、大きいと思いました。道路だけでも日本と比べるととても広かったし、車の量もとても多かったです。でも、車の量のわりに車線があまり整備されていないような場所もありました。日本では守られている交通ルールが守られていない時もありました。人の量もとても多くて、人が多い所が苦手な私は、歩くだけでも疲れてしまう時もありました。

2つ目は空気があまり良くないということです。上海に着いた時に青空が少し見えていたので「空気が悪いとはいっても青い空はやっぱり見えるんだ。」と思っていたら、その直後に上海で青空が見えるのは珍しいと聞いて、とてもびっくりしました。また、他の日にも空がかすんでいるように見えるということがよくありました。中国の工業の発展の反面、環境への影響もやはりあるのだなあと思いました。私が住んでいる高松の環境の良さに感謝しました。

3つ目は英語の大切さです。ホストシスターは英語を上手に話すことができ、何かをがんばって伝えようとしてくれるのに、私がなかなか意味を理解できないということがよくありました。国際社会では英語がとても大切だということを、身をもって体験することができました。また、学校で習うだけの英語ではなく、中国に限らず海外に行った際に使える生きた英語が喋れるようになりたいと思いました。そしていつかもう一度ハエインに会いにいて、もっといろんな話をしたいです。

最後になりましたが、大山団長、金崎さん、森田さん、顔さんをはじめとする、中国でガイドをしてくれたみなさん、そして団員のみなさん、とても楽しかったです。今回の旅は一生心に残る旅になりました。本当にありがとうございました。



秋水広場でホストシスターのハエインちゃんと



雑技団の方と

## 中国での6日間



高松市立龍雲中学校1年

小路 悠

3月26日から、6日間の日程で訪中親善使節団の一員として中国へ行きました。まず上海に到着しました。上海の印象は、車が渋滞していて、信号待ちをしている歩行者も多く、ビルは高く、初めて見る大都会でした。

上海で有名な建物の1つは、高い東方明珠テレビ塔です。塔の90メートル地点や240メートル地点から見る夜景は、ビルのライトがたくさんついていて、まるで、キラキラと輝く宝石のように綺麗でした。

2日目の夜は、ホームステイ先で過ごしました。初めてのホームステイで不安でいっぱいでしたが、家につくまで、ステイ先の悦ちゃんが、ずっと手を握ってくれていたのも、とても安心しました。3日目の夜は、悦ちゃんの友達と一緒にレストランへ外食しました。その後、秋水広場へ行って、曉泉という噴水ショーを見ました。赤や黄色などカラフルなライトアップに自然を表現したなだらかな噴水が森に吸い込まれていくような感じで、とても印象に残りました。

5日目は、私が一番行きたかった万里の長城へ行きました。緩やかなコースを行きましたが、とても急で、昔の人が急な坂道を登り下りしているのを想像すると、とても体力のある人だなあと感じました。

この中国へ行くという体験は、疑問に思ったり、色々な事に関心を持ったりして、国によって、たくさんの違いがあることがわかったすばらしい体験だと思いました。健康で行き、安全に帰国できたことに感謝します。又、私をホームステイして迎えてくれた家族、中国に行かせてくれた家族、中国への準備をしてくれた方々、ガイドさん、顔さん、交流協会の方々、そして、団員の皆さん、ありがとうございました。謝謝！！



天安門広場で友達と



長くどこまでも続く万里の長城



上海の中心部にて

## Happy in China for 6 days



高松市立龍雲中学校2年

十河 仁大

3月26日よいよ訪中使節団員として中国に出発する日を迎えました。多くの方々に温かく見られる中、期待と不安でドキドキしながらバスに乗り込みました。岡山空港から上海浦東へ友達と話しているとあっという間に着きとても身近な国だと感じ、また空港の大きさに驚きました。今回の目的は、去年参加した姉の話聞きとても魅力を感じ、また日頃祖母の国際交流会に参加して各国の留学生と接する中、僕も団員として参加することで現地の人々との交流や文化の違い等を実際に体験したいと思いました。そして上海万博を開催し、経済発展している中国や歴史ある中国をもっと知りたいという思いがあり今回参加することができ本当に嬉しかったです。

1日目は、上海の東方明珠テレビ塔に行き、高層ビルが立ち並び、高松とは違う風景を見て中国の偉大さを感じました。テレビ塔の最上階に行くまでは混雑してとても大変でした。(人口が多い・・人人人・・)最上階から見た夜景は宝石よりきれいで、今でも目に焼きついています。そして夕食は本場の中華料理です。中でもチャーハンがとても美味かったです。(毎回豪華な食事・・すごい！)

2日目は上海動物園に行きました。園内は広くたくさんの動物がいて初めてパンダも見ました。中でも一番かわかったのは、レッサーパンダです。(天気が良くてサイコー！?)

その後、上海から南昌に行きました。いよいよホストファミリーと対面です。胸はドキドキ、ワクワク！初めてホストファミリーと会い優しくあたたかく迎えてくれてホッとしました。

3日目ホストブラザーがいる第27中学校に行きました。初めは緊張しましたが互いにそれぞれの国の歌や踊りを披露し言葉は通じませんでしたが、交流を図り通じあえたと思います。昼食は給食を食べました。(日本のほうが美味しいかな?)それから八大山人に行き日本では見たことがないすばらしい彫刻を見ました。夜は、ホストファミリーと一緒に自宅で豪華な夕食を食べました。(部屋も豪華！食事も豪華！)

4日目は、南昌市副市長との対面、(緊張した～(\*\_\*))南昌大学の学生との交流でソーラン節と一緒に踊り、ナルシストについて語り合い、たくさんの思い出ができました。

5日目はいよいよ北京、世界遺産の万里の長城と天安門広場です。天候もよく万里の長城に上がると遠くまで連なっているのを見て雄大で歴史の重みを感じました。(降りる時は怖かった・・)夜はオプションで雑技団の演技を見てとても盛り上がりました。夕食は本場の北京ダック、美味しいあまり、食べ過ぎてしまいました。最後の夜は団員とホテルで朝方までワイワイと最後の日を惜しみました。(本当に楽しかったな(^◇^))

僕の想像を超えた人口の多さ、雄大な国土、発展した中国、歴史を感じた中国をみて日本と違いを知ることができました。またこの訪問を通じて沢山のひと々と出会い交流を図り自分の視野が広まりました。これからも機会があれば、国境を越えた交流を図り僕の未来に役立てたいです。お世話をしてくれた皆様ありがとうございました。謝謝！再見！



豪華な中国料理



友好都市南昌にて友人と



## 中国を訪問して



香川県立高松北中学校 1年

若宮 翔

僕は、今回の訪問で自分なりの世界観と英語の必要性、コミュニケーション能力の大切さを身につけました。中国に入国するまで、日本は極東アジアのなかでトップの技術力とトップクラスの大きな発展した都市がある、1番の国だと思っていました。しかし、それはまちがいであったということが訪問するたびにだんだんと分かってきました。

ついに、上海に到着。岡山から上海へ向かう航空便の中では、不安と期待の2つしか僕の胸の中にはありませんでした。でも、上海に着くとなぜか不安は期待に変わりました。それは、中国人の姿や様子があまり日本人と大差なかったからかもしれません。上海では、アジア No. 1の高さを誇るテレビ塔を見ました。テレビ塔は日本にはなさそうなユニークな形で、展望フロアから見た上海の高層ビル群はとてもきれいでした。そんな上海で、1番思い出に残ったのは車のナンバープレートを取得するのに日本円にして、何十万円もかかるということです。日本では、何千円かで済むのだから上海の人たちは大変だなとおもいました。ガイドさんが言うにはこれ、朝と夕方のラッシュを防ぐためだそうです。

翌日は上海動物園でパンダ！を見ました。あまりこっちを向いてくれなかったり、大の字になって寝ていたりとあまり写真は撮れませんでした。パンダを見ることができ、よかったです。

夜になって上海空港から南昌に飛びました。そして、ホストファミリーと対面しました。はじめはいけると思っていたのですが、いざ対面式となると緊張しました。ホストブラザーの袁はとても親切にしてくれ、ホストファミリーの家に帰る途中いろいろなことをはなしてくれましたが正直、1/3ぐらいしか聞き取れずはじめから悪戦苦闘しました。そんな中で1つ驚いたのは、ホストファミリーの車がBMWだった事。人生初めての体験でした。(笑)

3日目は予定が変更になり南昌市の第27中学校と交流。出し物のハンカチ落としは、ルールもしっかり理解してくれ、大成功でした。そして、おどろいたのは全員が景品のアメを1つずつ取っていくことでした。日本では3, 4個取っていくのに・・・(笑) 中国の国民性が現れていると思いました。他にもいろいろと驚いたことかありました。夕方には、ホストファミリーと合流し、一緒に噴水を見に行きました。大きくて、ショーの最後に巨大な水柱には圧巻でした。

翌朝には、南昌市副市长さんを表敬訪問し、食事をしました。ここの食事は少し辛かったです。午後には、南昌商学院の日本語科の学生と交流しました。みんな日本語が話せたので、リラックスできました。学生たちとソーラン節を踊り、授業を見学しました。団員の〇〇君が変なことをいったので、ある例文を読まされてしまいました。

5日目、北京に着き万里の長城に登りました。想像していたよりかは楽でしたが、男子3人で走ったので疲れしました。その後、市内に戻り予定にはなかった雑技団見ることができました。1時間30分のショーでしたが、時間を忘れて見ました。夜には、待望の北京ダックを食べました。牛肉でも鶏肉でもない味でした。

僕は、今回の中国訪問で普通の家族旅行やツアー旅行ではできない体験と交流ができたことを感謝します。今後はグローバルな目で世界を見て、国際交流に関心を持つと思います。最後になりましたが、大山団長、金崎さん、森田さん南昌市の皆さんに「謝謝」そして「再見」 end.



どこまでも続く万里の長城



ホストブラザーの袁

## 6日間で学んだこと



香川大学教育学部附属高松中学校 1年

松村 将裕

今回で中国に行くのは、3回目でした。しかし、今回の訪問は今までのものとはとても違いました。今までは、家族旅行で行ったりするものでした。しかし、今回は家族とではなく友達などと一緒に行くものでした。しかも、目的が違います。旅行の場合の目的は観光です。しかし、今回の目的は国際交流です。この目的というものが今までのものとは、最も異なる点でした。

僕は、今回の今までの旅行とは違う訪問で様々なことを学びました。

まず一つ目は、英語力の大切さです。訪問先は中国です。あたり前ですが中国語が使われています。日本語を使ってもほとんどの相手とは話しが伝わりません。だからといって中国語は言えません。そこで必要となってくるのは、世界共通語である英語です。英語なら中国の人も分かります。しかし、英語がうまく使えなければこれも話は伝じません。上手に使い相手のいっていることをきちんと理解する、これが交流していくうえでとても大事になっていました。僕は、あまり英語が得意でないのでホストブラザーと話す時は辞書とにらめっこしながら話していました。時にはうまく話が伝じないことがたくさんありました。この時、英語がいかに大切なのかが分かりました。

二つ目は、団体行動でのマナーです。旅行の時は、家族なので少人数です。しかし、今回は団体です。移動や活動するときも団体で動きます。中国は、世界一位の人口です。ただでさえそんなに多いところでとなると団体での移動はとても難しくなります。誰か一人が何かなると、残りの人達にまで影響が及びます。そこで大事になってくるのは、一人一人が意識して行動するということでした。今回の訪問でも、誰かが何かしらの問題を起こしそれがまわりの人にまで影響し時間が遅れたりすることがありました。やはり、一人一人が意識をもって行動するというのが大事になってくるのでしょう。

この二つ以外にも、様々なことを学びました。たった6日間という期間でしたが今回の訪問では、このようなたくさんの方のことを学ぶことができました。今回の訪問で学んだことや経験したことは、これからの生活で大変役に立つものばかりです。これらのことは、日々の生活の中で使っていきたいです。僕はこれらのことを一生忘れないようにしたいです。最後に、団長、金崎さん、森田さん他今回の訪中に関わったすべての方と中国関係者の皆様に感謝します。本当にありがとうございました。



故宮博物館にて



ホストブラザーの程君と

## 一生の思い出 6日間



香川大学教育学部付属高松中学校1年

中村 萌乃

「中国」と聞いて思い浮かぶのは、少し前に見たテレビのニュースたち。尖閣諸島問題や上海万博でのテーマソング問題。正直、私の中国に対する初めの印象は少し悪いものでした。なら、なぜ、今回の訪中に参加しようと考えたのか。理由は2つあり、1つは国際交流の輪を広げ、中国と対等な友好関係を築きたいということ。そして、もう1つは近い将来、世界で爆発的な日本のポップス、J-Popの潜流を起こすという自分の夢を叶えるために、経済発展のめまぐるしい中国の様子を自分の目で見てきたいということでした。そして今回の訪中ではこれらの目標以上が達成できました。

まず最初に驚いたのはとにかく建物が高いこと。サンポートのシンボルタワーやゴールドタワーとは比べ物にならないくらい高く、見上げる首が痛いほどでした。しかし、普通に道路を通っていると、荒れた土地もよく目に入り、ちょうど今経済成長を遂げようとする途中だと感じました。

そして、本場の中華料理は日本のものとは比べ物にならないくらい美味しく驚きました。特に豚肉、鶏肉を使った料理たちはプロの技が光りました。文化の違いからか、結婚式場で食べることができたり、ビッグサイズのケーキがでてきたりすることも面白かったです。

また中国で出会った方々は皆、私たちのことをよく気遣ってくださりうれしかったです。

中でも特別にお世話になったホストファミリーの家では、「将来日本でマンガに関する仕事に尽其きたい。」と言っていたホストシスターの雪宝ちゃんが、なるべく日本語で話しかけてくれようとする姿勢に感激しました。そして改めて、学校で学習している英語の大切さを知りました。最初から最後までガイドをしてくれた顔さんの心の温かさにも感謝しています。

訪中で一番楽しい時間は、買い物でした。店員さんと交渉して値下げをしてもらったので、計画していた半分くらいのおこずかいで、たくさんのお土産を買うことが出来たのでうれしかったです。

私が最初に抱いていた中国に対する少し悪い印象は訪中の6日間にすっかりなくなっていました。中国は広い国です。なので日本のメディアは一部の悪いところだけをとりあげ、過激な報道をしすぎているのかなと感じました。

今の私にできることは、中国の素晴らしさを日本のみんなに伝えることです。私のように日本の報道をみて中国に対しマイナスの印象を抱いている人たちはたくさんいると思います。そういった人たちの誤解を私の言葉で解いていきたいと思っています。そして大人になって、いつか日本の音楽を中国に広めるため戻れること楽しみにしています。

最後になりましたが、私たちの訪中を企画してくださった方、ダンスや歌を教えって下さった先生方、団長をはじめ引率して下さった森田さん、金崎さん、旅行の費用を出してくれた家族に感謝！



ホームステイ先での朝食



豪華だった副市長との昼食会



上海テレビ塔

## 中国で視野を広める



香川大学教育学部附属高松中学校 1年

藤原 衣織

『もっと広い視野を持つことができるようになるために中国へ行く。』と12月の面接で言った。帰国後、その目標を果たすことができたのか考えてみた。広い視野を持つとはどういうことなのか。物の考え方の及ぶ範囲を広げるということだ。今回の訪中親善使節団としては、より多くのことに関心を持ち、より多くのことを知り、より多くのことを発信することだと思う。それは、各地を訪れることで知った文化や物事に対する考え方の違い、共通点に関心を持つことである。そして、それらは外からの影響で知った事だけでなく自分から積極的に知ろうとした事こそが重要である。そのためには自分たちのことも伝えなければならない。

文化や考え方の違いを見たり聞いたりして知ることはできたと思う。今まで以上に中国への興味や関心が広がった。しかし、多くの場面では文化や考え方の違いに圧倒され自分から視野を広めようとするのを忘れてしまっていた。自分から積極的にとはいかなかった。

初めての海外旅行、初めての親善使節団の体験で特に楽しみにしていたのがホームステイである。ホームステイ1日目はその厳しさを知ってしまった。言語が通じない。そんなことは当たり前のはずだった。英語でジェスチャーを交えて話せばいいじゃないかと簡単に考えていた。だが、初めて会ったどんな暮らしをしてきたのか分からない人といきなり苦手な英語で話すことは思った以上に勇気が必要だった。ジェスチャーも思うほどは出てこなかった。いつもは得意なイラストもここぞの場面ですぐうまく使えなかった。私の頭に浮かぶのは、Ok、No、Yes、Thank youの4語ぐらいだった。ホストシスターの成語は英語がペラペラで、私にいろいろなことを訊いてくれるのだが、私はというと例の4つの言葉しか返すことができず、黙りこくってしまうこともあった。何とか伝えようという、もっと強い気持ちが必要だった。もっと勉強したり練習したりしていれば勇気を出して自分から話ぐできたはずだ。伝えたいのに伝えられないもどかしさはつらかった。後悔が残る辛い時間だった。

ホストファミリーとお別れする朝、たくさんのお土産をいただいた。その中に古い昔の漢字で「藤原衣織」と彫られた印鑑があった。それは、成語のお父さんが徹夜で作ってくださったものだと聞いて本当に感激した。成語のお父さんは英語が話せなくて、お互い伝えたいことが伝わらなかったりした。それなのに私のために寝る時間を削って作ってくださった。

中国の字で「藤原衣織」と彫られた自分の名前はとても美しく、強く、はっきりしていて、自分の意思をきちんと言葉で伝えることが大切だと教えてくださっている気がした。いただいた印鑑は日本に戻っても繰り返し見ては押している。その度にその気持ちが伝わってくる気がする。言葉が通じなくても相手を喜ばせたり考えや思いを伝えたりできると分かった。

ホームステイ2日目は大事なことを教えていただいた。何かをしようとする時、心を込めて一生懸命すれば、たとえ見ず知らずの言葉が通じない人とでも分かり合えることを成語のお父さんが私に知らせてくださった。

世界は広くまだまだ知らないことがたくさんある。今回その中のほんの一部にすぎないが、中国の3つの都市の文化や人々の考え方に触れることができ本当に良かった。

私の視野を広める旅はまだ始まったばかりだと思っている。次こそは勇気をもって、自分から話しかけ、思いを伝えたいと思う。何度も交流し、こんな体験をしたいと思う。



友達とホストシスターの4人で



いただいた印鑑

## 你好！我叫 SongBenXiaoKui、謝謝！



香川大学教育学部付属高松中学校2年

松本 咲葵

「楽しかった。」ありきたりな表現だけど、この言葉が一番よく今回の訪問を表していると思う。当初私は中国にあまりいいイメージを持っていなかった。しかしその考えは跡形もなく消えてしまった。

最初に見学したのは上海テレビ塔。でもそこに行くまでにビルの高さには圧倒され、もう驚けなかった。晩ごはんは、本場の中華料理。これでもかというほど量が多い！

2日目の朝、一番楽しみにしていたのはパンダ！上海動物園はとても広く、歩いて歩いて、やっと会えた。……と思ったら、パンダはまるでおっさん。横にいたレッサーパンダの方が愛くるしかった。その夜南昌へ。私のホストシスターは2年飛び級をしていると聞いていたから、ちっちゃいのかな、と思っていた。ところが実際は私達より大人っぽくて驚いた。

次の日、南昌第二十七中に行く。まず出迎えてくれたのは、道の両側で整然とお辞儀する生徒たち。そして中国側の完璧なダンスを見ていると、私たちの出し物がとても不安になった。ところが私達1班のハンカチ落とし、2班の三択クイズどちらも大盛況だった。中国なまりの英語を聞き取るのは難しかったけど、こちらがゆっくりはつきり話すように心がけると、向こうも気づかってくれて会話することができた。練習ではグダグダだった「一合ました」も無事終わる。大盛り上がりの中学校訪問だった。夜は慧明の友達とも夕食を食べに行った。友達の一人は日本の漫画が好きなので、おなじ漫画を読んでいて嬉しかった。

4日目は南昌商学院で日本語学科の学生さん達とも交流した。皆日本語がうまくて、飛び級している人もちらほら。仲良くなった人とはメアドを交換した。

北京観光の日。ニュースでよく見る天安門にはたくさんの観光客が訪れていた。ラストエンペラーが住んだ故宮も見て、いざ万里の長城へ。天気はとてもよくて、景色が遠くまで見えた。そしてその後！急遽雑技団のショーを見られることになった！人間とは思えない技の連続で、会場から出てきた皆は興奮気味。そのテンションのまま、夕食はお待ちかねの北京ダック。金崎さんの誕生日のお祝いもして、最後の晚餐にふさわしい食事だった。

この訪問を振り返って、痛感したのは、言葉の大切さ。いくら英語が話せても、やはり中国語の方が意志疎通はしやすいはず。実際英語が通じないところもあり、中国語を勉強したい！と思うようになった。

もし「中国で一番好きなのはどこ？」と聞かれたら、やはり「南昌」と私は答える。大切な仲間がたくさんできたからだ。帰国してからも何人かとメールのやり取りを続けている。本当にこの訪問に参加できてよかった。この訪問に関わってくれたすべての人に感謝したい。Thanks a million! 很感謝！

我愛第19回中学生訪中親善使節団！



ホストマザー、慧明、友達との夕食



最後の夜ホテルにて

## 私の中国紀行



香川大学教育学部附属高松中学校 2年

檀浦 万有香

待ちに待った中国訪問の日がやってきた。ワクワクしながらバスにのりこんだ。本当は、ちょっぴり不安。飛行機は思ったよりも小さくて、結構揺れた。ますます不安。

上海に到着。空港から出ると、きれいな家とそうでない家が隣同士に混在していて、とても不思議な光景だった。私たちはさっそく東方明珠テレビ塔を見学。テレビ塔の周りにはたくさんの人がいて、迷子になりそうなほどの混雑ぶり。しかし、ガイドさんいわく、いつもこんなものらしい。さすが、人口世界一の中国。塔の形はおもしろくて、ライトアップされた姿は、まるで宇宙都市のようだった。日本よりもずっとスケールが大きい。

しかし、周りには偽ブランドの物売りがたむろしていたりして、急速な発展とまだまだそれに追いついていない部分が混じり合い独特の雰囲気を感じた。

2日目はまず、上海動物園へ。念願のパンダの見学。実は私はこれまでパンダを見たことがない。実際に見たパンダは、少し汚れていて、ササを豪快にかじり、思っていたよりも野性的な印象だった。他にもたくさんの動物を見たが、どの動物もカメラ目線に対応・・・ちょっと複雑。

次に上海博物館へ。道具や衣装などが少しずつ、発達していく様子などを見ることができ、中国の長い歴史やそれを大切にしている姿に感激した。日本に伝わっているものもたくさんあった。その後、彫刻のすばらしい豫園へ。庭に配置された彫刻は、今にも動きだしそうな迫力で、私たちにせまってきた。

夜はいよいよホストファミリーとの対面、すごく緊張（今回の旅行で一番楽しみで一番心配）初めて会った明玥ちゃんは、おとなしそうな印象だった。家へ向かう車内ではみんな無言で、どうしよう、どうしよう・・・視線をきよろきよろしていると明玥ちゃんが英語で話しかけてくれた。でも、Nice to meet youぐらいしか話せないまま家へ到着。時間も遅かったので、1日目はあまり会話できず、就寝。大きく不安。明日はたくさん話せますように・・・

3日目は予定が変わって、中学校訪問へ。門での盛大な歓迎にまずびっくり。彼らの踊りと歌は、優雅ですごく上手だ。私たちは圧倒された。まけないようにがんばらねば・・・幸いにもハンカチ落としやクイズは大成功。鳴子を使ったおどりもアクシデントに見舞われながらも、うまくいき、喜んでもらえたようだ。最初は緊張したが、中国の中学生たちが「どこからきたの?」「一緒に写真とろう」などと気さくに声を掛けてくれたので、少しずつ打ち解けることができた。

その後、スーパーマーケットへ。大きくてびっくり! たくさんの買い物をした。

この日の夕食は、ホストファミリーといっしょに南昌で有名なお店に行った。今日は大学の日本語科に通うお姉さん2人もいっしょなので、心強い。辛い料理もあったけど、中国で食べた食事の中で一番おいしかったかも・・・会話もはずんだ。食後は、噴水広場や本屋さん、コスメショップなどに行き、楽しいときを過ごすことができた。お店の印象は日本と似ている。記念のキーホルダーも買って大満足! 家に帰り、明玥ちゃんとその弟と3人でお互いの国や学校、またアイドル歌手、アニメなどについて夜遅くまで話をした。国は違っても、同じようなものに興味を持っていることが分かって、とても親近感がわいた。翌朝は、ワンタンを食べて、お別れ。もっとたくさん話したかったな。

4日目の予定は大学訪問。たくさんの学生さんが迎えてくれた。大学生は私たちともなんとなく日本語で会話。すごい! 松本さんや榊原さんと3人で日本語のコントをした。そして最後の訪問地、北京へ。万里の長城は、晴れていて遠くまで見ることができた。こんな長いもの良く作ったなとしみじみ思う。ここには、いろんな国の人がいた。お土産も買って天安門広場などを見て回った。

この中国訪問では、異文化や英語の大切さ、コミュニケーションの取り方を学び、貴重な体験をすることができた。これからも英語をますます勉強して、世界中の人たちと友達になりたい。また、自分の国の文化や、歴史を知っているようで分からないこともあったので、説明できるようになりたい。お世話になった方々ありがとうございました。謝謝。



動物園のパンダ ささをガリガリ



ホストファミリーと友達とそのホストファミリーと

## 国際交流への夢、実現



香川大学教育学部附属高松中学校2年

榊原 麻衣

「百聞は一見に如かず」

その言葉の通り、今回の訪中親善旅行は、中国に対する私の知識と見聞をはるかに超えるものだった。

私が使節団を希望した理由は、自分の中の世界観を変えるためだった。メディアでしか見たことのない中国の目ざましい発展と、近代的な街の様子をしっかりと自分の目で見たいと思ったのだ。同世代の中国の子供と交流することにより刺激を受け、自分の中で何かが変わるかもしれない、そんな期待と不安な気持ちを胸一杯にしながら、上海に降り立った。

上海の光景は想像以上だった。すき間なく立ちばたかるビルの数々の中にひときわとそびえ立つ「テレビ塔」は圧倒的な存在感だ。上へ上へと天を突き抜けるかのような長い塔は中国の経済急成長のシンボルであり、見る者を感嘆させる。上ばかりを眺めていると疲れたので、ふと街の様子に目をやると、とても対照的な光景が目に入った。

物ごいをしている人がいるのだ。市街地や古く小さな民家も多く見られ、中国急成長の光と影の部分を見たような気がした。

そして、南京路では、夜なのに昼間のような明るさを放つネオンの多さにびっくりした。ネオンで色どられた街で「吉野屋」「ユニクロ」などの日本企業の看板がひときわ目立っていた。企業にとって、世界一人口の多い中国に進出する手は、成功の証なのかもしれないと思った。

夜は使節団のみんなと本格的な中華料理を囲んで楽しんだ。唯一、ほっとするような時間であったが、ここでも文化や習慣の違いを学んだ。料理の数も量も日本とはスケールが違ってあまりにも多く、食べきれなかった。後で知ったのだが、中国では料理を残すのが正しい礼儀だそうだ。

さて、今回の旅で一番緊張したのがホストファミリーとの対面式だった。私のホストシスターは「子鶯」。子鶯の笑顔は私の不安な気持ちを吹き飛ばしてくれた。子鶯はとても明るく優しい子で、家に向かうまで車の中では、南昌の街について英語で色々教えてくれた。子鶯は私と同じ年なのに、英語がとても堪能で勉強家だ。学校の英語の宿題を見せてもらったのだが、難しい単語と長文をすらすらと読み、理解していたのにはびっくりだ。自分の英語力の無さを痛感し、恥ずかしくなった。子鶯のお母さんも優しく温かい人で、私のために素敵なサプライズを用意してくれた。初めて会った時に、「どんな食べ物が好き？」と聞かれたので、「小籠包」と迷わず答えると、次の日の朝、食卓の上に小籠包が並んでいた。本場の小籠包はやはり美味しい。

南昌第二十七中学校の交流会では、たくさんの同世代の子と触れ合えた。中学生が踊る中国の舞は、扇を使った美しい舞でそのレベルの高さに感動した。私の班が企画した「日本と高松について三択クイズ」では予想以上に反響があり、笑いながら取り組んでくれて、交流係としても嬉しくなった。

南昌商学院では日本語科の学生と交流した。流暢に日本語を話す人ばかりで、冗談も言い合いながら楽しいひとときを過ごした。別れ際に、「自分らしく自分の道を歩め」という意味が込められた「書」をいただいた。今の私の心の中に、大きく響く言葉だった。

北京では紫禁城、万里の長城などの世界遺産を見学した。紫禁城では、歴代の皇帝が座ったという玉座を間近でみた。城内は広く、豪華な造りで歴史の流れを感じた。万里の長城は、その雄大さが目に焼きついた。どこまでも遠く続く長城に言葉を奪われた。ただ、感嘆するのみであった。

今回の訪中では、民族と文化の違い、言葉の壁を超えて、たくさんのことを学び、会得する事ができた。また、六日間行動を共にした団員の皆とも交流が広まり、かけがえのない思い出となった。初めての訪中の参加を迷っていた私の背中を押してくれた先生、両親、そして国際交流協会の大山さん、金崎さん、森田さん、団員たち。色々な人々の尽力を受け、機会を与えられ、参加できたことに感謝している。この貴重な体験を糧にして、国際的な仕事に就きたいという自分の進路を位置づけていきたいと思う。



子鶯と南昌にある公園で



上海、テレビ塔で

